

「EPISTULA」:
古典ラテン語で“手紙”という意味です。
広報室からみなさまへ、
芸文短大の“いま”を伝えるお手紙を
お届けします。



大分県立芸術文化短期大学広報誌
エピストゥラ

Epistula

特集

美術・音楽・国際・情コミ
全4学科1年間の活動報告



【表紙モデル】美術科 デザイン専攻
(P1 第60回 美術科 卒業・修了制作展)

恩師からのお別れの言葉

この3月をもって、芸文短大を3名の先生が退職されます。先生方の退職を記念し、お別れの言葉をいただきました。

美術科デザイン専攻



教授 松坂 洋三

大分県立芸術文化短期大学の皆様
令和3年度卒業・修了の皆様は、2年
間4年間共にしてきた友だちと暫くの
間お別れとなり、4月からそれぞれの
新しい世界へ出帆するのだと思います。
頑張ってください。わくわくしますね。
私も皆様と一緒に3月に本学を卒業
いたします。私の経験から、皆様に3
つの言葉をお送りしたいと思います。
この事を心がけてくだされば、いつか
必ず大きなチャンスがやってきます。
その時を逃さずにものにしてください。
一つ「いつも他人より少しだけ丁寧
に行う」二つ「苦しい時こそ口角を
あげる」三つ「背筋を伸ばして歩く」
以上です。

情報コミュニケーション学科



教授 狩谷 新

非常勤勤務を経て専任教員となって
から、15年。この間、体重が75キロ
から95キロの間をいったりきたり。
痩せていたり、太っていたり、卒業
生の多くには、二年しかない短大生
活で、ちぐはぐな印象を残している
かもしれません。専攻科の科目も
担当していたので、芸術系の学生と
知り合うことも多く、様々な刺激を
受け、創作表現という共通教育の
科目では、創作音楽劇と銘打って、
15作品を舞台公演、最後の年には
音楽科の協力を得て、オペラを作る
こともできました。定年を迎えまし
たが、毎日筋トレと水泳を続けていま
す。まだまだ元気です。

国際総合学科



講師 千賀 喜史

この短期大学では、会社員からの
教員ということもあり多くの経験を
させていただきました。
特に創立60周年記念事業では、
学生と共にサンリオエンターテイ
メント様とコラボレーショングッズの
開発に携わらせていただいたのが
印象的です。国際総合学科のみならず、
美術科や情報コミュニケーション
学科の学生の考え方に触れ、
多くの刺激をいただきました。次の
フィールドではいただいた経験を
活かし、事業創造や地方創生と
いった分野で実務に貢献したいと
考えています。3年半ありがとうございました。

INFORMATION | 2022 3 MAR.-2022 4 APR. |

EVENT CALENDAR

3 MAR.

16
wed

第60回卒業演奏会

17
thu

第38回修了演奏会

18
fri

卒業・修了式

4 APR.

5
tue

入学式

6・9
wed sat

オリエンテーション

11
mon

前期授業開始

※各イベントは変更になる場合があります。



大分県立芸術文化短期大学の公式
Facebookでは、本学が主催するイベン
ト・展覧会等のお知らせをはじめ、キャン
パス内の様子や学生たちが行うさまざ
まな活動について報告しています。また、
サークルやイベント、研究室等でも
Facebookを立ち上げています。

芸文短大 検索 <https://www.oita-pjc.ac.jp>



大分県立
芸術文化
短期大学



美術科
ビジュアル
デザインコース



美術科
グラフィックアート
コース



美術科
プロダクト
デザインコース



音楽科



国際総合学科



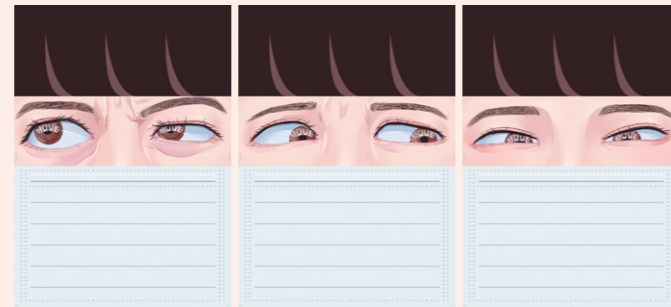
情報
コミュニケーション
学科



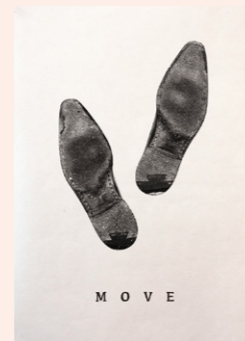
Department of Art And Design

「JAGDA 国際学生 ポスターアワード2021」 短大2年生が銀賞受賞

「Move」をテーマに募集された日本グラフィックデザイン協会主催の国際ポスターコンペティションにおいて、世界21ヶ国の国と地域からの応募総数2,327作品の中から、銀賞にデザイン専攻短大2年(ビジュアルデザインコース)宮井奏那海さん、入選に同じく短大2年児島英里さん、専攻科造形専攻2年(ビジュアルデザイン)村田ショーン拓也さんの作品が選ばれました。宮井さんはコロナ禍で顔をマスクに覆われることによる、コミュニケーションの取りづらさをコミカルに表現。入賞・入選作品は東京都港区国立新美術館にて開催された同アワード受賞作品展にて、2021年11月24日～12月6日まで展示されました。



銀賞：宮井奏那海さんの作品「見えている世界」



入選：
児島英里さんの作品
「靴拓」



入選：
村田ショーン拓也さんの作品
「独創と洗練」

「おおいた デザイン・エイド2021」 にて大分銀行の 通帳・カードをデザイン

大分市主催のコンペティション「おおいたデザイン・エイド2021」にて、本学デザイン専攻ビジュアルデザインコース学生の作品4点が学生賞(全5点)を受賞しました。

今年度の課題提供企業の募集テーマは「大分銀行の新社会人向け通帳・カードのデザイン」で、本来はデザイン提案までのコンペティションですが、デザインが高く評価され、通帳ケースとして実際に採用されることになりました。



		Design 01
【専攻科造形専攻1年生】黒木勇哉さん		
		Design 02
【短大1年生】草野優美さん		
		Design 03
【短大1年生】福元みゆさん		
		Design 04
【短大1年生】高城沙良さん		

県内各地で 多彩なアート活動

Department of Art And Design

今年も作品展など
さまざまな活動を
積極的に大分県内
各地で行いました。

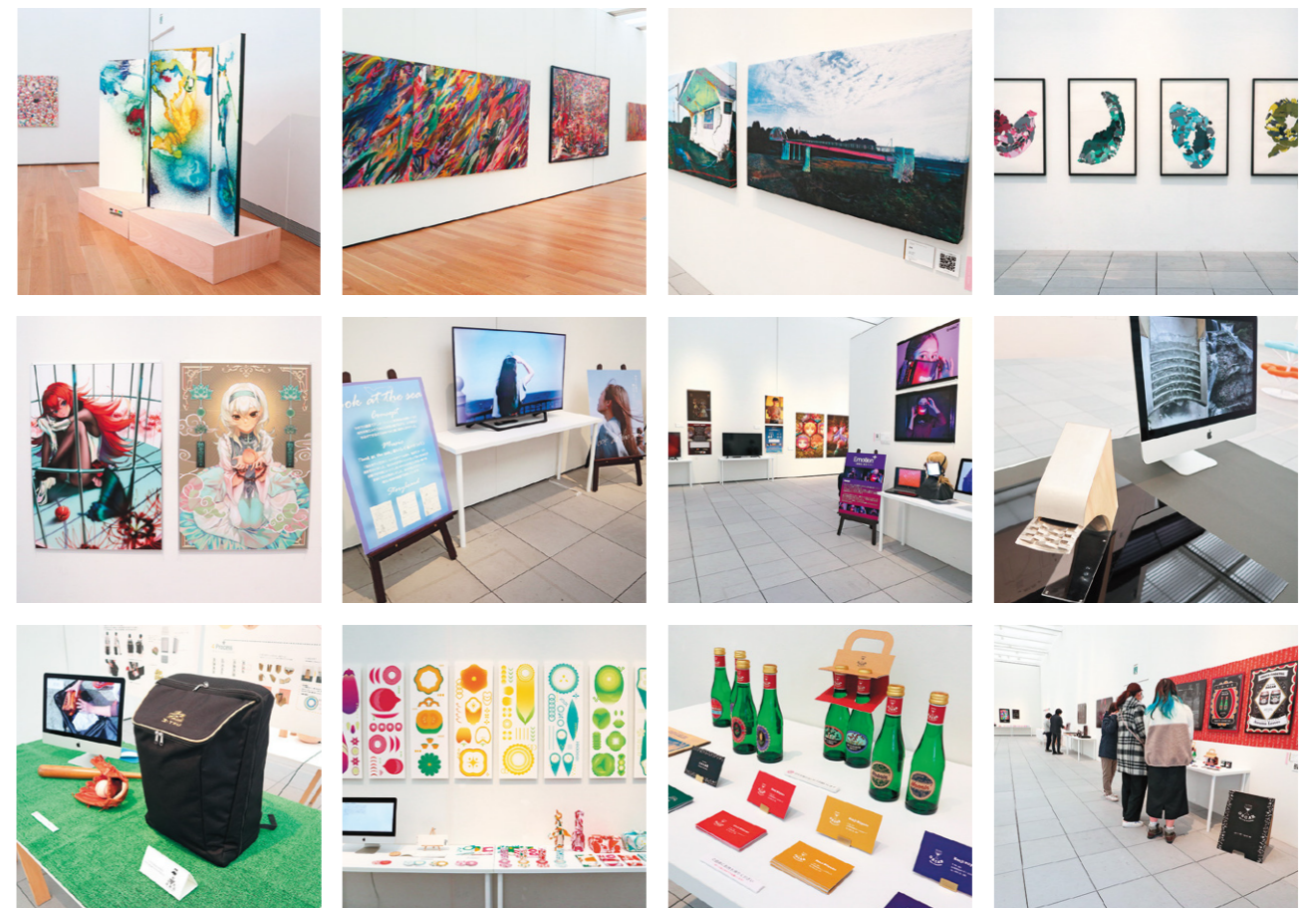
美術科

「第60回 美術科 卒業・修了制作展」を開催



2022年2月1日(火)～2月6日(日)、大分県立美術館(1F展示室A:デザイン専攻、3F展示室B:美術専攻)にて「第60回美術科 卒業・修了制作展」を開催しました。短大生は2年間、専攻科生は4年間、芸文短大で美術やデザインを専門的に学び、その集大成となる研究・作品発表の場として、全98名による132点の作品を展示しました。

各分野の関係者の方や、県民・保護者の皆様、高校生と沢山の方々にご観覧いただき、1,000名を超える来場者となりました。



Department of Music

中津江ホールで地域巡回演奏会を開催しました



9月13日(月)、日田市中津江村栃野の中津江ホールで、地域巡回演奏会を開催しました。
 本学音楽科、専攻科音楽専攻の学生21名が地元中学生、地域住民の皆さんを前に、オペラハイライト、ピアノソロ、器楽アンサンブルを披露しました。
 来場者からは「なかなか聞く機会が少ない演奏会を開いていただきとても嬉しいです。楽しませていただきました」と喜びの声が寄せられました。

「A. ベヴェラリ氏公開マスタークラス」を開催しました



10月16日(土)、本学音楽ホールで、東京フィルハーモニー交響楽団首席クラリネット奏者のA.ベヴェラリ氏による公開マスタークラスを開催し、音楽科・専攻科音楽専攻管弦打コースの10名の学生等がマンツーマンのレッスンを受けました。
 曲の情景や表現手法に加え、普段と異なる角度からのアプローチなど、実演を交えて納得のいく演奏ができるまで徹底的に指導していただきました。

創立60周年及びキャンパス整備完成記念式典でコンサートを開催しました



10月28日(木)、本学音楽ホールにて、創立60周年及びキャンパス整備完成記念式典を開催し、音楽科による大分県ゆかりの作曲家瀧廉太郎「四季」等を編曲した記念コンサートが行われました。大分県知事をはじめ関係市長など、関係者約60名にお越しいただき、会場から大きな拍手が送られました。

Opera Piena di Vita 第31回「オペラ・オペレッタ名場面集」を開催しました



12月8日(水)、本学音楽ホールにて、オペラサークル「Opera Piena di Vita」による「オペラ・オペレッタ名場面集」を開催しました。コロナ禍で活動に制限のある中でしたが、オペラサークルOBにもご出演いただき、音楽ホールを舞台にオペラがより楽しめる公演になりました。同サークルは12月24日(金)に別府市で開催された、劇団立見席プロデュース「演劇祭」でも公演し、多くの方々を魅了しました。

「小林道夫客員教授声楽特別レッスン」を開催しました



1月9日(日)、10日(月)の2日間、本学音楽ホールで「小林道夫客員教授声楽特別レッスン」を開催し、専攻科音楽専攻の10名が受講しました。
 学生ひとりひとりに演奏曲の歴史やその表現手法について指導いただき、伴奏のピアノ演奏者に対してもひとつひとつの音の大きさを指導していただきました。

電子音響音楽演奏会を開催しました



1月14日(金)、本学音楽ホールで「電子音響音楽演奏会」を開催し、音楽情報機器演習(担当:松宮圭太講師)を履修する学生や教員9名が制作した楽曲等を披露しました。
 音の響きに配慮した音楽専用ホールには10本のスピーカーが設置され、全方位から響く音が来場者を圧倒しました。

1回の舞台経験は 100回の練習に 勝る!

Department of Music

音楽科ではこの言葉をモットーに、できるだけ多く本格的なステージに立って演奏する機会が学生たちに与えられています。また、著名な演奏家を招いての特別コースを実施するなど個別レッスンにも力を入れています。

音楽科

卒業・修了演奏会のお知らせ

日付 3月16日(水)・17日(木)

時間 18:00開演

場所 iichiko総合文化センター
iichiko音の泉ホール

音楽科では「1回の舞台経験は、100回の練習に勝る」をモットーに、音楽科コンサートシリーズなどを開催しました。

9月には前期実技試験成績優秀者による「若さあふれるコンサート」①を開催。10月には学科総動員の「第57回定期演奏会」②、11月以降は各コースごとの特色あふれる「作曲作品展」③「ピアノコース演奏会～ピアノ音楽への誘い～」④(11月)、「管弦打コース演奏会～師走に心温まるひとときを～」⑤(12月)、「声楽コース演奏会～声の饗宴～」(2月)を開催しました。

また、年度末には1年間の集大成である「第60回卒業演奏会」、専攻科音楽専攻「第38回修了演奏会」を開催します(3月16日、17日)。



Department of Global Studies

車いすマラソンワークショップを開催しました



10月22日(金)、「国際ボランティア実習Ⅰ・Ⅱ」で実施する大分国際車いすマラソンのボランティア事前研修として、プロアスリートの廣道純さんをお招きして学内ワークショップを開催し、国際総合学科の1・2年生22名が参加しました。マラソン用の車いすを前に廣道さんの選手ならではの実践的な話を交えた軽妙なトークに、恐る恐るレーサー(競技用車いす)に触れていた学生も最後は笑顔で車いすの乗り心地を体験し、車いすマラソン選手へのサポートについて詳しく学びました。

フィールドワーク実習を行いました

10月30日(土)から31日(日)、観光マネジメントコース「フィールドワーク実習」の受講生が安心院(大分県宇佐市)で1泊2日農村・農泊体験を行いました。普段のキャンパスでは味わうことのできない自然に囲まれた環境の中で、農作物の収穫をしたり、受入家庭の方々にアドバイスをいただきながら焼き火で焼き芋を作ったりお菓子づくりなどを行いました。学生同士、そして受入家庭の方々とたくさん話をする事ができ、貴重な時間を過ごすことができました。



日本語検定団体表彰で文部科学大臣賞を受賞しました



2021年度 第1回「日本語検定」で、国際総合学科の学生21名が3級に合格し、本学が団体表彰の大学・短期大学・高等専門学校部門において最上位の文部科学大臣賞を受賞しました。総合的な日本語力を身につけるために、日本語検定の問題は幅広く6つの領域(敬語・文法・語彙・言葉の意味・表記・漢字)から出題されます。国際総合学科では、グローバル社会を生きる今こそ日本語への興味関心や理解を深めるとともに、正しく美しい日本語の修得に努めることを目指しています。

さまざまな国際交流や魅力ある講義を実施

国際総合
学科

Department of Global Studies

本学科も協力してくれたオンラインオープンキャンパスの配信風景



国際総合学科では、海外語学実習や大分国際車いすマラソンでのボランティア活動、留学生との交友など、例年さまざまな国際交流活動が行われています。世界的にまん延した新型コロナウイルスの影響もあり実際に海外渡航を伴うプログラムの実施は控えざるを得ませんでしたが、それでも学科全体でICTを活用した修学支援体制を構築し、新たな時代に適応する学修を実践しようと奮闘した一年となりました。

4月に入学した新入生全員には、C-Learningという学修支援システムのアカウントを発行しました。この仕組みを用いることで、オンライン授業であっても、手元にあるスマートフォンやタブレット端末で授業教材が入手できます。もちろん、感染防止対策を徹底しながら、対面授業も継続しています。授業の質は落とすことなく、対面形式とオンライン形式を併用

しながらアップデートを続けてきました。

必修科目の「キャリアデザイン」という授業では、海外に留学中の卒業生とオンラインでつなぎながら、現地からリアルタイムな体験談を聞かせていただきました。また、大分国際車いすマラソンの関連企画や私たちを取り巻く「日常」を見つめ直すイベントも開催しました。毎年秋に開催される「芸短フェスタ」では、多国籍なチームメイトが丸となって勝利を目指すスポーツチームの取り組みから、多様性と個性の発揮について学ぶトークライブイベントも開催しました。海外に足を運ぶことが難しい時期であっても、学生たちは国際交流や地域との連携、そして多くの人のコミュニケーションを着実に実践してくれています。

感染症対策下において安全性に最大限配慮しながらも、学生と教員とが一緒になって、充実した学びの形を模索し、実践する一年となりました。



「国際ボランティア論」で学生に呼びかけ集めた古着を大分県フィリピン友好協会を通じてフィリピンに届けました。



大臣塚古墳や元町石仏、高良神社などキャンパス周辺に点在する史跡12カ所を巡る「上野丘歴史さんぽ」を行いました。



「私の芸短」「私の日常」「私の地元」「私の友達」という4つのテーマから自分たちの日常を見つめ直す「私の一枚写真展」を開催しました。



大分県をセカンドホストエリアとして活動する横浜キャンソニーグロスの方々を招き、スポーツを通して多様性と個性の発揮について考えるトークライブイベントを開催しました。

地域活動を 学生が報告

2021年度は、計46のサービラーニングの活動を行いました。新型コロナウイルス感染症の影響が懸念されましたが、十分な感染症対策をとり、地域住民の皆さまと綿密な事前の打ち合わせを行ったうえで、各種活動に取り組みました。大分県内各地に出向き、各種課題の解決に取り組みながら、コミュニケーション力や協調性を向上させました(以下の写真は、撮影時のみマスクを外しています)。以下にご紹介しきれない活動内容については、学科専用のホームページ、Instagramにて紹介しています。下記のQRコードからアクセスし、ぜひご覧ください。

その他の活動内容は
下記QRよりご覧ください

Instagram 学科ホームページ



竹田市とうきび支援

少子高齢化が進む竹田市においてとうきびの収穫・加工・販売を行いました。



府内七ヶ丘キャンドルナイト

学生が主体となり、子供向けの短冊や2,000個のキャンドル作成を行いました。



竹楽 in 芸文短大

芸文短大60周年を記念し、2,000本の竹灯籠を設置しました。



竹楽支援活動 in 竹田市

全国的に有名な「竹楽」のデザインと設置の支援を行いました。



野津原の遊歩道整備

3月に行われるトレイルランニングの開催に向け、遊歩道を整備しました。



くちなしの収穫支援

高齢化・過疎化が進む地区でくちなしの収穫支援を行いました。



別府の街巡りと清掃活動

学生が企画・準備をして、別府の歴史を学びながら町の清掃を行いました。



おおい活性化ネットワーク

大分青年会議所の皆さんと、大分を活性化させるために定期的に会議を行いました。



七ヶ丘ブロードウェイ

大分青年会議所の皆さんと15,000個の風船を準備し、短冊とともに大空に放ちました。



幸崎海岸清掃活動

ウミガメが産卵する砂浜を守るため、清掃活動を行いました。



トマト農業体験

県内のトマト農園を訪問し、Youtubeで美味しさを伝える活動に取り組みました。



古代米の収穫支援

付加価値のある農産物を目指して、古代米の収穫支援(掛け干し)を行いました。



棚田におけるお米の収穫支援

過疎化・高齢化が進んでいる野津原地区の棚田において稲の収穫支援を行いました。



赤い羽根共同募金プロジェクト

芸文短大オリジナルボールペンを作成し、大分県内で募金活動を行いました。



おおい夢色音楽祭の支援

音楽祭を盛り上げるため、スタッフとして活動に参加し活性化に貢献しました。

狩谷 教授 最終講義「メディア・コミュニケーション」を行いました

1月18日(火)、本学大講義室において、3月末で退職される狩谷教授の最終講義が行われました。「メディア・コミュニケーション 発信者の心得」と題し、狩谷先生が手がけて全国放送されたドラマなどを上映しながら、映像の魅力とは何かや、おもしろいコンテンツに必要な要素などについてお話されました。この講義には100名近くの学生が出席し、映像一筋でキャリアを積んでこられたプロ「映像マン」の情熱に耳を傾けました。21歳の若さで結婚しイギリスのケンブリッジに留学した経験談など、プライベートな話も披露され、会場は更に盛り上がりました。最後に狩谷ゼミ2年の後藤 玲奈さんが代表して、狩谷先生に感謝の気持ちとともに花束を贈呈しました。狩谷教授の長年のご功績に敬意と感謝を表すとともに、今後もご健康でご活躍されることをお祈りいたします。15年間、本当にお世話になりました。



地元と連携した活動を通して 情報コミュニケーション力を 磨く

Department of Communication

and Information Studies

サービラーニングをはじめ、学内外での活躍が光る情報コミュニケーション学科。本誌で紹介できなかった活動を一部紹介します。

情報 コミュニケーション 学科

2年間の集大成「卒業研究発表会」を開催!

1月31日、2月1日の2日間、本学大講義室で情報コミュニケーション学科 卒業研究発表会を開催し、12研究室から55のテーマの発表が行われました。

今年も、対面とオンライン(Zoom)を併用する形で実施し、発表後には教員及び在学生から活発な質問が行われました。

新型コロナの影響もあり、調査や取材には困難を伴いましたが、各研究テーマとも非常に内容の充実したものとなりました。

【研究発表一例】

[心理スポーツコース]

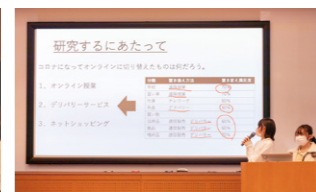
- スマートフォンの会話中の使用は友人関係をこわすのか?
- コロナ禍の生活スタイルとストレス
- 女性の化粧行動と自尊心の関連
- 友人関係におけるキャラ化のメリット・デメリット
- 東京オリンピック開催に対する学生の意識調査

[地域ビジネスコース]

- 地方都市への移住を促進するための要因分析
 - 大分県豊後高田市における事例調査から -
- 一村一品運動と地方創生
 - 海外への展開に注目して -
- コロナ禍における労働環境の変化
 - テレワーク取り組み事例を基に -
- アニメ・漫画で地域活性化できるのか?
 - 進撃の巨人からみる成功の理由 -

[情報メディアコース]

- Live配信と切り抜き動画に求められる需要
- 音楽プロモーションにおけるTikTok活用の可能性
- 炎上事例の多様性と分析
 - YouTuberからVTuberまで -
- 権利行使の緩急とアイドル文化
 - ジャニーズとK-POPの比較 -
- コロナ禍における消費活動の変化



竹田キャンパス通信

竹田キャンパスは、ゼミやサークルでの合宿、創作活動の拠点として竹田市に2010年4月にオープンした、芸文短大と地域との交流の場です



先日、ここ竹田キャンパスグラウンドでゲートボールをしているおじいちゃん、おばあちゃん達と湯呑の絵付け体験を行いました。
皆さん絵を描くのは苦手かなと思いつ、スポンジ等で模様をつける方法を考えました。皆さん良い意味で我が強く(笑) すぐさま思い思いの絵を描き始めました。描きたい絵というのは躊躇なく筆がはしり、とても良い線、良い表情が現れます。素敵な湯呑が完成しました。
コロナの現状をみながらですが、みんなで楽しくワークショップを行える竹田キャンパスに早く戻りたいものです。
(非常勤講師 前田亮二〇B)



GETTAN NEWS

2022 Spring

大分県信用組合との包括連携協定締結・調印式を行いました



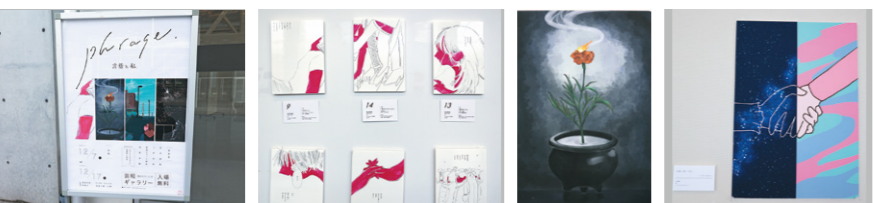
12月20日(月)、大分県信用組合と本学が大分県の地方創生の包括連携協定締結・調印式を行いました。
芸術系と人文系の学科を持ち県内就職率の高い本学と、県内各地に支店を有し、メセナ活動で美術展や各種セミナーを展開する同組合が連携し、芸術文化の振興、人材育成、若者の県内定着などに取り組むことを確認しました。

大分県信用組合 吉野一彦理事長は、「学生の県内就職率向上に向け、採用面での支援を行っていきたく」と話され、小手川大助学長からは、「学生が大分の利点を吸収し、地元の様々な場で活躍できるように連携していきたい」と、それぞれの強みを生かした連携の意思を伝えました。



芸短ギャラリー作品介绍

「phrase. ～言葉と私～」<12月7日～12月17日> 専攻科 造形専攻 ビジュアルデザインコース



「進級制作展」<1月12日～1月21日> 美術科 美術専攻1年、専攻科 造形専攻 美術コース1年



学友会情報

GAKUYUKAI

@GakuyuGefan @geitandayoo

この度学友会会長になりました情報コミュニケーション学科の高橋諒です。現在学友会は12人で活動しています。新型コロナウイルスの影響により、楽しみにして下さっていたイベント等を開催できない状況でございます。しかし、そんな辛い状況の中だからこそ学友会役員一丸となり今できる限りのイベントを開催して、皆さんと大学生活を楽しんでいきたいと考えております。至らない点があるとは思いますが、誠心誠意役員たちと頑張っていきたいと思っております！また、学友会は随時役員募集しておりますので、気になった方がいらっしゃいましたらいつでもお声がけください。

日々是精進

- 【美術科】
 - 第46回全国大学版画展 (http://cupsi.org/archives/2381)
 - 【上田市立美術館賞】 箕田 梨々花(デザイン専攻グラフィックアートコース2年)
- 【音楽科】
 - 第49回大分県音楽コンクール木管部門 大学一般の部
 - 【第2位】西岡 あゆな(管弦打コース2年)
 - 第27回宮日音楽コンクール
 - 【入選】上ノ瀬 結夏(管弦打コース2年、フルート)
 - 【国際総合学科】
 - ビジネス系検定 秘書検定
 - 【1級】高野 真夕(2年)
- 【専攻科】
 - 第46回全国大学版画展 (優秀賞)川添 彩加(造形専攻グラフィックアートコース1年)
 - 日本デザイン学会第5支部発表会 2021「ライトニングトーク」
 - 【ベストトーク賞】
 - 「ひらがなの独創性と造形に関する研究」 村田 ショーン拓也(造形専攻ビジュアルデザインコース2年)
 - 「大分市上野ヶ丘地区における認知症の理解を目的としたリーフレット制作」 (造形専攻ビジュアルデザイン1年・2年)
 - 第10回インテリア設計士の家具デザインコンペ (優秀賞)吉村 允良(専攻科造形専攻2年プロダクトデザイン)
 - 第49回大分県音楽コンクール声楽部門 大学生の部
 - 【第1位】佐々木 優実(音楽専攻声楽コース2年)
 - 第9回九州新聞社ピアノコンクール2次予選 自由曲部門 大学生コース
 - 【準グランプリ】萩原 そのか(音楽専攻ピアノコース1年)
 - トバイアスマテイ記念ピアノコンクール Web本選 大学生部門
 - 【奨励賞】萩原 そのか(音楽専攻ピアノコース1年)
 - 第31回日本クラシック音楽コンクール 本選 (優秀賞)釘崎 瑞華(音楽専攻ピアノコース2年)



学長コラム 生きる 欣び

先日京都の友人に会う機会がありました。彼はパカラの輸入商としても有名ですが、戦後、京都財界がお金を出し合せて、海外に流出した美術品の買戻しを彼の父に依頼した際に、父と一緒に日本の美術品の里帰りを進めてきた人物としても有名です。
その彼が、「青天を衝け」で洪沢栄一がパリ万博に参加するシーンがあったのだが、もう一押ししてほしかった」と悔しがっていました。それは、1867年のパリ万博で日本館がグランプリを取ったことでした。パリでの万博はその後、1878年、1889年、1900年に開催されましたが、その都度日本の美術品が高い評価を受け、ジャポニスム、アール・ヌーヴォー、アール・デコと欧州の美術に大きな影響を与えました。バカラもこの流れに乗って大きく成長します。
日本館がグランプリを取ったのは福沢諭吉のおかげでした。外貨を稼がないと植民地にされてしまうと気づいた福沢諭吉は、万博の10年ほど前から刀鍛冶、鎗師、鎗師などを集めて美術品として輸出できるように仕組みがグランプリにつながったのです。
明治維新後の我が国の植民地化を救ったのは絹織物ではなく、実は伝統工芸品でした。

President's column



学長 小手川 大助 (似顔絵:学長秘書 高橋梨紗)